

12th International Congress of Neuroimmunology



川邊 清一

東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野 (大森)

2014年11月9～13日にドイツのマインツで行われた、12th International Congress of Neuroimmunology (ICNI)に参加する機会に恵まれたので報告する。

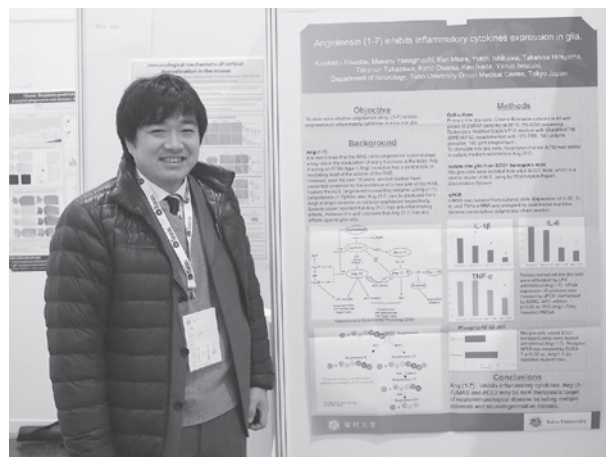
ICNIは多発性硬化症、重症筋無力症、Guillain-Barré症候群といった、免疫学的異常に起因する神経疾患に関する学会の中で最大のもので、2年に一度開催される。自己免疫性疾患以外にも脳梗塞や、Parkinson病、筋萎縮性側索硬化症といった神経変性疾患に対する免疫系の関与に関する研究も複数発表されており、興味深かった。

マインツはライン川の西側に位置し、ローマ帝国がライン川防衛のために建設した都市が起源とされ、ルネサンスの三大発明の一つである活版印刷を発明したグーテンベルグがマインツ出身であることからグーテンベルグ博物館やグーテンベルグ大学などがある。サッカー日本代表の岡崎慎司選手が所属する1. Fußball und Sportverein Mainz 05 (1. FSV マインツ 05)の本拠地と書いた方が分かる方も多いと思われる。11月上旬ということでドイツの都市で盛んに行われる、クリスマスマーケットにはまだ若干早く、その準備が少しずつ行われている様子であった。その代わりに、学会期間中に地域のお祭りが町の広場で開催されており、初冬の東ヨーロッパのどんよりとした天気の中ではあったが、町は活気づいていた。

学会では筆者の留学中の指導をしてくださった、Nottingham大学のCris Constantinescu教授、Bruno Gran先生と久しぶりに再会をし、近況を報告するとともに、研究についてアドバイスを頂いた。また、同時期にリトアニアやマラウィから留学していた友人たちとも会い、留学していたころの懐かしい話をする事ができた。メールやsocial networking serviceなどでやり取りはあるものの実際に会って旧交を温めることができる機会は多くはなく、これ



マインツ市内のお祭り



ポスター会場にて

らの再会が筆者にとっては本学会参加の楽しみの一つである。

また、Cris先生の計らいで、国立精神・神経医療研究センター神経研究所の山村隆先生、京都大学の近藤誉之先生らとの会食を、昭和大学解剖学の大滝博和先生、大橋病院の藤岡俊樹教授や大学院生の萩原渉先生などと一緒にさせていただいた。大滝先生とは前回のボストンでの同学会でお知り合いになることができ、今回は実験手技等についていろいろアドバイスを頂いた。学会場で最新の研究成

果を知ることと同時にいろいろな方からさまざまな話、助言を聞くことができる貴重な場として今後も国際学会に積極的に参加していきたいと思う。

次回の第13回ICNIは2016年にエルサレムで開かれることが計画されている。世界情勢が安定していることを祈るばかりである。